

エネルギー問題の学習も

第3回ボランティア集會に20名が参加

7月4日(日)の午後、第3回ボランティア集會が明舞ひまわりで開かれました。当初応援していただいた調理スタッフを含め20名が参加し、久々の集まりになり、まるで同窓会のような和やかな雰囲気でした。

冒頭の約1時間、ボランティアスタッフの大西東洋さんから「エネルギー節約のしあわせ」と題してお話をいただいた。大西さんは、京都でエネルギー研究のNPOで活躍しておられる。パワーポイントを使ってわかりやすく、地球が何億年もかかって蓄積した化石燃料をどのように使っていくかを具体的に、大西さんのご家庭の電力使用量のグラフを資料に説明された。

大西さんが好きな言葉は「この娑婆につかみ取りは無し」(日本永代蔵/井原西鶴)。みなさん、この意味がおわかりですか? 本当の幸せは、ものが満ち足りていることではないことを、もう一度考えてみましょう。

このあと、NPOひまわり会理事の松本誠さんから、明舞ひまわりの事業と経理状況が報告されました。明舞団地再生計画と私たちの活動、来年4月以降のひまわりの状況など、かなり厳しい問題についても指摘されました。

それにしても、ひまわりの経営を順調に伸ばしていくには、ボランティアスタッフの強化以外にないことが確認されました。ひとりでも多くのお知り合いに、お声をかけてください。(入江一恵)

明舞まちづくり広場が、センター2階にオープン

明舞センター2階に「明舞まちづくり広場」が7月10日、オープンしました。明舞団地40周年記念事業のひとつとして設置されたもので、住民へのまちづくりの情報発信、ミニイベント、展示の場として住民、NPO、商店会などの活発な活用が期待されています。市民の交流の場として親しまれるよう「明舞ひまわり」も何か提案できないか考慮中です。いいアイデアがありましたらお知らせください。

広場の運営はNPOに委託されていますが、運営スタッフに明舞ひまわりの喫茶担当スタッフである大西東洋さんが選ばれ、がんばっています。

増える配食希望者、カーボランティアを募集中!!

一般の配食業者のお弁当はメニューがマンネリ、冷凍食品が多いなどから、民生委員やケア・マネージャーの方などの紹介で、ひまわりの配食希望がぼつぼつ増えています。これらの要請に応えるためには、配達するカーボランティアが必要です。ぜひご紹介ください。これからは、お弁当には「ひまわりのロゴマーク」に献立表を添えたいと、目下準備中です。



ボランティア集會で語り合うスタッフ



「エネルギー節約の幸せ」について大西さんの講義

「ひまわり」の定食は、ほんとうに薄味？

ただいま塩分含有量を測定中

薄味で定評がある「ひまわり」の定食。薄味で美味しいということは、しっかり出しの旨味をとっていないければ作りだせないもの。お医者様から塩分制限を受けている方などに喜ばれているが、「ほんとに塩分が少ないの？」の疑問に答えるために、兵庫大学のV-netの学生さんの提案で調理前と調理後にボランティアによって測定されている。いずれ科学的なデータとして発表します。乞うご期待！



明舞ひまわりのシンボルマーク

NPOひまわり会が定時総会

まずは順調なスタート、先行き厳しい経営状況

昨年10月30日にオープンした「明舞ひまわり」を運営している「NPOひまわり会」の初の総会が、8月2日夜、ひまわりで開かれました。

7名の発起人であたふたとスタートしたひまわり会は、その後地元の住民の方々が次々に調理ボランティアスタッフに加わっていただき、調理ボランティアスタッフは30名を超すまでになりました。ひまわりの活動を物心両面から支える会員も正会員34名、賛助会員7名に増え、この間いただいた出資金、会費、寄付金は総額140万円近くにのびりました。こうした皆さまのご支援により、当初の厨房設備や備品を購入することができるなど、速やかなスタートを切ることができました。

今年3月末までの2003年度の営業収支も、順調な食堂部門の売り上げによって食堂、野菜部門合わせて10万円余りの黒字にすることができました。もちろんこれには、家賃が県の助成金によってまかなわれたことや、何よりも食堂の調理スタッフが無償で活動していただいたことが大きく寄与しております。

食堂の調理ボランティアには、3月から1日500円という形ばかりの手当てを支給することにしましたが、なんとか早く、この何倍かの手当を出せるようにしたいと思っています。

また今年度は、食堂は毎日50食体制に入り、4—6月期の営業は順調に推移していますが、4月からは家賃の負担や初期投資の店舗改装費の償却一部負担がはじまったことなどから、営業収支はほぼトントンの厳しい経営に迫られています。

しかし、明舞ひまわりのスタッフは、元気に、楽しく、意欲満々で取り組んでいます。何よりも、利用者の皆さんのほっとしたお顔に元気づけられています。明舞ひまわりは、利用者とスタッフで支えあっている「場」なのです。

利用者の声

福永綾子さん

ひまわりで味わう至福のひととき

人生の持ち時間も少なくなった私は、一日々々を大事に生きていきたい。そして、三度の食事を大事にしたいと、常日ごろ思っております。

思いとは裏腹に、習い事やボランティアにでかけることの多い私は、つい手抜き料理してしまい、これではいけないと後悔しきり。そんな折、「お食事処ひまわり」ができました。食べ物本来の「素」の味わいを大切にした献立、一汁三菜、いただくと内側から細胞が新しくなるような感じがします。

食事は命をつなぐもの。食べ物は地球が育てた命。素朴な食材を味わい、健やかなままに人生をまっとうしたい！！ だれでもが願うことと思います。

食べてほっとするような、幸せになるような食事をいただき、美味しいコーヒーを飲む至福のとき。心癒される思いで帰路についております。



NPOひまわり会、総会の風景